

10.24反核大阪行動に 50万人が結集

動労千葉 全支部から62名の代表団が参加

核戦争の危機が現実の問題となった今日、ヨーロッパから端を発した反核のうねりが全世界的な運動として大きくなってきた。日本においても「3・21広島20万人集会」から「5・23反核東京行動40万人集会」の成功を引きつぎ、「82年反核・軍縮・平和のための大阪50万人行動」が、晴天の大阪城公園一帯にくりひろげられた。

全国いたる所から会場である大阪城公園内10ヶ所の会場にぞくぞくと労働者・学生・市民が結集し、「反戦・反核」を闘う人の波でうずめつくされた。さしづめ公園は人民の広場となり、主催者から「参加者は50万人に達しました」との参加人員の報告がなされるや、会場からは一斉に拍手の渦がまきおこり、集会も圧倒的な成功がかけとられた。

●熱気あふれる集会場●

三里塚を闘う人々を軸に最高の盛り上がり

動労千葉は、この集会の成功にむけて早朝から決起しました。10月中を通じて全支部で一斉に「大阪派遣団」の代表編成とそのための自主カンパが精力的にとりくまれ、全支部からの計62名にのぼる代表団が編成されました。当日早朝、まず午前4時半、青年部を主体とした先発隊・第一陣12名が千葉駅を出発、つづいて午前7時年輩者を含む第二陣15名が同じく千葉駅をたって一路大阪へとむかいました。

10時から開始された「侵略と差別に反対する広場」での三里塚を闘う全国住民・労働者の前段独自集会には、第一陣メンバーが参加、また第二陣の本隊も全体集会で合流しました。

集会では多くの方から発言があり、中でも反戦被爆者の会を代表しての広島の小西のぶ子さんからは自らの体験を通して原爆のおそろしさと戦争反対をいかなければならないことを切々と訴えられ、思わず目がしらが熱くなりました。また、日本の原田さんは病いをおして参加され「死ぬまで闘い続けていく」との熱い決意が述べられました。さらに、反靖国を闘うれつか氏、沖縄民権会の古波津氏、部落解放同盟大阪府連荒本支部長の瀬川氏、意岐部東小の辻岡氏から「反戦・反核

三里塚を闘う」立場からの力強い決意が述べられました。動労千葉からは片岡教宣部長が「動労『本部』革マル反動分子のスト庄殺策動を粉碎して、三里塚二期決戦に固く結合した今秋一年末の三里塚―国鉄決戦、反合・仲裁の断固たるゼネス



三里塚を闘う勢力は、力強く大阪50万人集会をけん引した。前段独自集会

トを闘い
 とろう」
 と断固たる決意を明らかにしました。三里塚反対同盟からは、島村さん、市東さん、小川喜平さんが発言に立ち「二期阻止・空港廃港成田用水粉砕して断固闘う」と決意表明すると広大な大阪城公園にはひとときわ高い拍手と歓声がこだましていつまでも鳴りやまないほどで感動しました。

●北原事務局長が全体集会で断固たる三里塚勝利への訴え●関川委員長の総括で終了●

動労千葉は、部落解放同盟と三里塚を闘う人々が大合流をかけた数万人の結集した第二会場「侵略と差別に反対の広場」に合流しました。会場わきではかつての日本帝國主義のアジア侵略の実体をあばくパネル展が開かれ、道ゆく人が喰い入るようなぞきこんでいたのが印象的でした。

多くの発言に続いて、三里塚芝山連合空港反対同盟を代表して北原事務局長が登壇すると会場は一挙に興奮と感動のルツボと化しました。数万に及ぶ人々を前に、北原事務局長は「『空港絶対反対、一切の話し合い拒否』『農地死守・実力闘争』『二期阻止・成田用水粉砕』の基本路線を死守して闘う。三里塚に敵対する政府・公団の手先、全人民の敵2革マルを全国から掃いて、来春三月現地大闘争を実現し、二期決戦に必ず勝利しよう!」と烈々と訴えると会場全体がまるで地ひびきがするかのようにとよめき、拍手と歓声はしばし鳴りやまないほどのすばらしい盛り上がりとなりました。

この大阪大会は圧倒的な成功をおさめました。全体集会終了後、再び三里塚を闘う仲間が万余の人々の注視の中、意気軒昂たる勝利の総括集会を開き、動労千葉関川委員長の提起とまとめ、また勝利の展望に満ちあふれた断固たる決意の表明をうけて、参加者全員は今後もますます猛然と勝利へむかって進撃していくことを誓って、この日の闘いを終了しました。

われわれの力で もうちくだけ!

核も戦争も